

Annual Report 2014

2014年度年次報告

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303 ☎03-6228-0746



イマーン・ファークちゃん（享年12歳）2014年7月に大腸がんで亡くなりました。彼女の描いてくれたバラの絵が、チョコ募金の缶のふたに使われました。

目次

事務局長よりご挨拶	．．． 2	会計に関する報告	．．． 9～10
JIM-NETのあゆみ	．．． 3	【2014年度決算および2015年度予算】	
組織体制	．．． 3	【2015年3月末貸借対照表】	
JIM-NET参加団体	．．． 4	【監査報告書】	
2014年度事業報告	．．． 5～6		
2015年度事業計画	．．． 7～8		

事務局長よりご挨拶

2014年6月、「モスルがイスラム国に陥落した」という連絡が入りました。

モスルはJIM-NETにゆかりの地です。2003年1月29日、私は、バグダッドのマンスール病院（現在は子ども福祉病院）に行き、日本で買い付けた小児白血病の専門書を医師に渡しました。その医師は嬉しそうに病院を案内して、「子どもに絵を描いてほしい」と私がせがむと、ベッドに寝ている子どもたちに声をかけてくれました。「絵を描きたい」と言ってくれたのがモスルから入院していた12歳のラナちゃんでした。



点滴のためのカニューラ針が腕に刺さっており、自由に動かせないながらもしっかりと鉛筆を握りしめて描いてくれたのが、日本の女の子と手をつないでいる絵でした。

「友だちになれたらいいなあ」といって微笑んでくれた少女を前に、イラク戦争を絶対に起こしてはいけな心と心に誓ったのです。そして、もう一つ、些細なことかもしれませんが、色鉛筆をホテルにおいてきた私は、「今度は、色鉛筆を持ってきてあげる」という約束をしました。しかし、戦争が始まるというので帰国せねばならず、彼女に会うことはできませんでした。彼女の絵をメディアで流してもらい、「戦争を始めたら、真っ先に死んでしまうのは、罪のない病気の子どもたちです」と訴えました。ラナちゃんは、後でわかったのですが、絵を描いた数日後には亡くなっていました。約束は何一つ果たせませんでした。

2003年10月、米軍はアンバール州で戦闘を続け、サダム・フセインを探していましたが、私は、ラナちゃんの家族を探し当ててモスルに行きました。そこでは、ラナちゃんのおばさんが英語が喋れるというので、私に話しかけてきました。

「外国人は、写真だけ撮って帰っていった。どうして、助けてくれなかったのか」「イラク政府が許可を出さなかったんです」「助けようという気はあったのか」「もちろんです。今は許可を取る必要もないので、支援をしているんです」「いつからです?」「10日前に薬を持ってイラクに来ました」「10日前?遅すぎます!」

そんなやりとりを覚えています。

「遅すぎます!」その一言が、私を突き動かしました。モスルで立てた誓い。「がんの子どもたちを助けよう」。

そして立ち上がったのがJIM-NETです。そして、それ以来私はモスルにはいくことができていません。イラク戦争は、終わらず、治安が安定しないまま今は「イスラム国」の圧政に統治されているのです。

一方日本は、戦争が出来る国になろうと必死になっていますが、武力ではなく平和を創っていく方法、それは、ラナちゃんが言っていた、「友だちになりたい」という一言にヒントがあります。

ラナちゃんの夢は、先生になること。私たちは本当に、ラナちゃんのような子どもたちから、しっかりと学ぶ必要があるのではないのでしょうか?

特定非営利活動法人

日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

事務局長 佐藤真紀

حالي ساتو

JIM-NET のあゆみ

1990年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが、助かるはずの命を失ってしまいました。

2003年のイラク戦争では、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとっては危機的状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャンン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）」を立ち上げました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年2月1日、特定非営利活動法人（NPO法人）となりました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災においては、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県では、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援をしました。また2012年4月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、難民基金を立ち上げて緊急支援を開始。2013年度はシリア難民の妊産婦支援に取り組みました。

2014年には結成10周年を迎え、記念事業として米軍の空爆で怪我をしたイラクの青年を招聘し、イラク戦争を被害者の立場から考える機会をつくり、日本政府に「イラク戦争の検証」をあらためて求めました。新規事業として、ヨルダンにおけるシリア難民の戦争負傷者／障害者支援を開始し、従来の支援に加えてイラク国内避難民を対象に緊急支援を行いました。

JIM-NETは、イラクの小児がんの子どもたちが、自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率になるように支援を続けます。福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な諸活動を行います。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援も継続して取り組んでいきます。

組織体制

【役員】

代表	鎌田 寛
副代表兼事務局長	佐藤 真紀
理事	池住 義憲
理事	井下 俊
理事	鎌仲 ひとみ
理事	谷山 博史
理事	平野 裕二
監事	栗原 郁

【スタッフ】

東京事務所スタッフ：5名（他アルバイト4名）
アルビル事務所スタッフ：1名 アンマン事務所スタッフ：1名
イラク人スタッフ：アルビル4名 バグダッド1名 バスラ1名

【サポーター】

ラナサポーター*：598名
一般サポーター**：1,482名

* ラナサポーター：年会費1万円は、うち3千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

** 一般サポーター：年会費3千円は、会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NETの運営に充当されます。

JIM-NET 参加団体 (50 音順)

【アラブの子どもとなかよくする会】(<http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/>)

1991 年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993 年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アフーク・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

【カタログハウス基金】(<http://www.cataloghouse.co.jp/>)

カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリの子どもたちへの支援は 2008 年まで 18 年間続けました。現在はドイツ平和村と福島の子どもの支援カンパを読者に呼びかけ、イラクの子どもたち救援についてはカタログハウスが会社として取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】(<http://www.douwakan.co.jp/group/fund>)

童話館グループは、長崎市にある絵本・こどもの本を専門にあつかう会社です。2001 年、童話館の創業 20 周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援をしています。

【「サダコ」・虹基金】（「サダコ」・虹基金ブログ <http://sadakoniji.sblo.jp/>）

「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに 2006 年 3 月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児がんで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

【スマイルこどもクリニック】(<http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm>)

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001 年に開院された 24 時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。2011 年度はマクムール難民キャンプに救急車を寄付しました。現在、JIM-NET ヘスタッフを派出させる他、毎月事務局の運営費を支援しています。

【日本国際ボランティアセンター (JVC)】(<http://www.ngo-jvc.net/>)

JVC は、1980 年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動している国際協力 NGO です。現場の声を政府や社会に届ける政策提言・アドボカシーの活動にも力を入れています。

【日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)】(<http://jcf.ne.jp/>)

JCF は、1991 年 1 月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定 NPO 法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行ってきました。2004 年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。また 2011 年 3 月 11 日からは、原発震災の福島の子どものたちを守ろうと被ばく防護対策事業を行っています。

【劣化ウラン廃絶キャンペーン (CADU-JP)】(<http://www.cadu-jp.org/contents.html>)

2003 年 10 月、ドイツ・ハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人に開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

2014 年度事業報告

イラクでは、2014 年 1 月から「イスラム国」とイラク政府軍との間で激しい戦闘が続き、ファルージャ、ラマディの一部が「イスラム国」に制圧された。4 月末には国政選挙が行われたが組閣が遅れた。その後 6 月にはモスルが「イスラム国」に陥落し、当初はクルド地区に 50 万人を超える国内避難民が出た。8 月には米軍が「イスラム国」支配地域に空爆を行った。その後、マリキ首相は退陣し、新たにアバディ氏が首相に就任したが治安の改善には至っておらず、国内避難民は 250 万人を超えた。

一方、内戦 4 年目を迎えたシリアでも「イスラム国」が活動範囲を拡大したため、9 月にはアメリカが有志連合を結成しシリア国内への空爆を開始した。2015 年 6 月現在 UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）登録のシリア難民数は約 400 万人となり、うちイラクには約 25 万人、ヨルダンには約 62 万人が逃れてきている。

このような状況の中で、JIM-NET は、イラク国内避難民およびシリア難民の小児がんの患者支援、妊産婦支援、ヨルダンにおけるシリア難民の戦争負傷者／障害者支援を実施し、加えてイラク国内避難民を対象に緊急支援を行った。

日本国内では、2014 年 4 月に武器輸出三原則に代わる新たな政府方針として『防衛装備移転三原則』が閣議決定され、武器輸出が緩和された。7 月には集団的自衛権の行使容認が閣議決定され、ODA 大綱も 2015 年 2 月に改定され、軍に対する非軍事支援などが可能となるなど、軍事化の動きが活性化している。

JIM-NET は 10 周年の記念事業として、米軍の空爆で怪我をしたイラクの青年を招聘し、イラク戦争を被害者の立場から考える機会をつくり、日本政府に「イラク戦争の検証」をあらためて求めた。

また東日本大震災から 4 年経過し、原発問題が解決されないまま放置されていることを危惧し、2015 年 3 月に開催された国連防災世界会議に参加し、東京電力福島第一原子力発電所事故や原子力災害に関する議論をしっかりと行うよう政策提言を行った。

【主な活動実績】

（1）イラク小児がん支援

①アルビル地域（北イラク）

ナナカリ病院に 40,443 ドル分の医薬品、血液検査機器、輸血用機器に必要な消耗品を支援した。また、ドホークにも多くの避難民が流れたため、JIN 病院に 5000 ドル分の医薬品支援を行った。ナナカリ病院では感染症対策を中心とした看護師研修（2 回、計 25 名参加）を行った。ナナカリ病院内プレイルームには、現地 NGO の「PENA センター」と協議してボランティアを派遣し、滑り台を寄贈した。難民キャンプからの通院者のうち父親に仕事がない子ども 31 名には、通院費を支援した。また、イラク政府のプログラムでインドで骨髄移植を受けた患者 3 名の 1 年後のフォローアップ検査のために、インドまでの交通費、検査費等を支援した。

難民・避難民や遠方からの患者と家族の宿泊施設を兼ね備えたケア・ハウス設立に向けての調査を開始した。

②バグダッド（セントラル子ども病院、子ども福祉病院）

144,000 ドル分の医薬品支援を行った。セントラル病院内で週 3 日運営しているプレイルームでは、常時数名の子どもが遊んでいる。感染症対策のために 3 月に改装した。2 月には子どもたちの絵画と写真 60 点余りを病棟の踊り場に展示し、来場者から好評を博した。ナナカリ病院で開催された研修に看護師を派遣した。延べ 141 名の貧困患者への交通費、検査費等を経済的に支援した。

③バスラ（バスラ子ども病院）

抗がん剤などを中心に 117,752 ドル分の医薬品、アルコールジェルやマスクなど感染症対策に必要な物資を支援した。病院内プレイルームでは教師 2 名に加え、がんのサバイバー 1 名を助手として雇用し、院内学級を実施した。また、課外活動として 10 月に遠足を実施し、患者と家族の合計 200 人が参加した。2 月にナナカリ病院で開催された研修に、2 名の看護師を派遣した。イランで放射線治療を受けた 2 名の患者を含む延べ 200 人の貧困患者への交通費、検査費等を支援した。

④ヨルダンでの小児がん治療費補助

キングフセインがん基金を通して、シリア難民とイラク難民の 2 名の子どもを支援した。

⑤その他の活動

外務省に小児がん支援の重要性を訴え、ナナカリ病院が日本政府から「草の根人間の安全保障支援」を受けられるように協力し、混雑する外来病棟のキャラバンの改修、増築を行うプロジェクトの契約が成立した（85,000 ドル）。

（2）難民支援

①イラク国内避難民緊急支援

アルビルでは、がん患者に必要な医薬品 2,000 ドル分をナナカリ病院へ供与し、10 人の小児がん患者にウェルカムキット（下着、タオル、歯ブラシ、石鹸、ビスケット等）を配った。アルワリード難民キャンプから避難し、ヨルダン・イラク間のノーマンズランドで孤立した難民に対し、抗生剤など 100 人分の医薬品を届けた。ドホークに避難したヤジディ教徒 200 人に対し、水・粉ミルク・パンの物資支援を行った。またハンケ地域でキャンプに入れずにいる 200 名に対し、毛布・マットレス・給湯器（6 台）を配布した。シリアのコバニからイラクのクルド自治区に逃れてきた難民に、おむつ 100 パックの物資を支援した。

②イラクにおけるシリア難民妊産婦支援

ダラシャ克蘭難民キャンプで約 330 人、カワルゴスク難民キャンプで約 190 人、合計約 520 人の妊婦に対して妊産婦健診や母子保健のための物資と情報を提供した。ダラシャ克蘭難民キャンプ内で産婦人科クリニックができるまで、産科病院へのミニバスを運行させた。超音波検査機器（エコー）や胎児心拍陣痛図（CTG）をカワルゴスク難民キャンプ内のクリニックに供与し、4 月～6 月までの 3 か月間に、約 190 人の妊産婦やそれ以外の約 370 人の婦人科疾患を抱える女性がエコー検査を受けた。ダラシャ克蘭難民キャンプにも産婦人科医が派遣されることになったため、エコーを供与しキャンプ内での健診を実施。9 月～3 月までの 6 か月間で、約 250 人がエコー検査を受けた。母子保健パンフレットを作成し、約 520 人の妊産婦に配布した。日本から看護師を派遣して母子保健セミナーを実施し、計 463 人の妊産婦が参加した。難民キャンプ内での妊産婦の心理的軽減のために、羊毛手工芸制作、描画、マッサージ教室などのワークショップを開催した。

「シリア難民妊産婦支援」パンフレットを作成・配布、日本での報告会の実施、ウェブを通じた情報発信を行った。

③ヨルダンにおけるシリア難民支援

シリア難民に増加する負傷者／障害者に対する支援を開始した。負傷者が病院／リハビリテーション施設に行く事ができるよう、住居医療施設間の移送サービスを提供している個人の活動を支援し、延べ 553 人がサービスを利用した。

12 月からは、シリア人による NGO、モビリティ・ソリューション（MS）のザアタリ難民キャンプやアンマン内の家庭訪問による負傷者／障害者へのリハビリテーション活動を支援した。キャンプでの訪問においては延べ 525 名、在宅リハビリテーションでは延べ 232 名に対しリハビリテーションを提供した。障害者自身が主体的に活動を立案、計画できるようになるための MS によるトレーニング（計 17 回）に参加する障害者の交通費支援を行った。

ピースボートの協力の下、ヨルダンのシリア難民に古着 794 着と、大王製紙から提供を受けたおむつ 830 パックを配った。

（3）福島事業

高性能のガイガーカウンターと GPS をノートパソコンにつないだホットスポットファインダーを購入。郡山の市民団体 3a に委託し、測定を欲する住民が自由に使えるように貸し出した。

福島の子どもたちが保養キャンプに参加する費用を支援（8 月、2 月）。また米沢で日帰り自然体験などを行う活動を支援した。

福島を元気にする活動として、郷土玩具アカベコにサッカーユニフォーム仕様の絵付けを行う「サカベコ」ワークショップを、会津の三島小学校、仮設住宅などで実施した。JICA 二本松の協力を得て、サッカーアジアカップ開催に合わせ、でき上がった「サカベコ」を二本松市役所、郡山駅ビル、福島駅構内に展示した（2014 年 12 月～2015 年 1 月）。

2015 国連防災世界会議日本 CSO ネットワーク（JCC2015）に参加し、防災世界会議とポスト兵庫行動枠組（HFA2）の中で原発災害のリスクをより積極的に取り扱うよう、主催者や共催者に求めていくために、運営面で協力した。ヨルダンから環境系 NGO の代表であるアイユーブ・アブダイエー氏を招聘し、NGO が主催し福島で開催された「市民が伝える福島 世界会議」、国連防災世界会議のパブリックフォーラム、サイドイベントなどで、ヨルダンにおける原発輸入の現状と市民社会の反原発活動の紹介や、福島原発事故に関する意見を述べる機会を持った。また、本会議でもヨルダンの市民社会を代表して反原発を訴えた。ピースボートとシャロームとの共催で、「市民参加による原子力災害の予防と対応」イベントを実施。JIM-NET と 3a、シャロームが福島の現状と市民社会の取り組みを伝え、フランスやヨルダンからの首長や NGO 関係者が各国での原子力災害に向けた防災・減災の取り組みを発表した。

（4）政策提言啓発

・劣化ウラン弾禁止に関するアドボカシー：国連総会で日本政府がスピーチする原稿に対する提言として 6 月と 9 月に外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課を訪問し、劣化ウラン弾が使用された場合の人道支援にかかわる安全確保という観点から、使用された場所と量を明らかにすることを盛り込むよう提言した。

・3 月に民主党の寺田学衆議院議員と面談し、ODA の非軍事分野での軍支援等がイラク国内の紛争を助長する可能性があることを訴えた。5 月には「ODA 大綱 4 原則における『非軍事主義』理念の堅持を求める市民声明」に賛同した。

（5）広報

JIM-NET 設立 10 周年を機会に、より多くの現地情報を発信し、支援者の輪を広げるため、以下の活動を実施した。

- ・公式 Web サイトを刷新し、書籍・絵画等の資料情報を充実させた。
- ・10 周年記念イベントや、「いのちの花」朗読会・ギャラリー日比谷展示会等、数々のイベントを実施した。
- ・11 月 8 日のチョコ募金キックオフに合わせ、リーフレットを改訂した。

（6）チョコ募金

受付期間は 2014 年 12 月 1 日～2015 年 1 月 31 日。テーマは「いのちの花」。パッケージに 4 人の小児がんと闘うイラクの子どもたちの絵を採用。六花亭の協力で前年度と同じく 160,000 個を製造、目標募金額を達成した。

2015 年度事業計画

イラクやシリアの治安は安定せず、さらなる難民や避難民が増えることが想定されるが、彼らへの支援は十分ではない。JIM-NET はより厳しい立場にある人々を対象に支援を継続しつつ、難民自身の力を活かしながら彼らの将来につながる支援を行っていく。

福島に関しては、子どもたちを放射能から守る活動を行う福島の団体を支援することで、福島の人々とともに、再稼働や原発輸出の問題に声を上げていく。

日本国内では、「軍備化」に向けた法制化が進むと予測される。戦後 70 周年を迎えるにあたり、日本を戦争する国にしないように、イラクでの演奏と戦後を見続けた NGO として政策提言を行う。

【主な活動計画】

(1) イラク小児がん支援

さらなる治安の悪化により医薬品の不足が見込まれ、さらに血液製剤などが兵士に優先的に使われることによる輸血用の消耗品の不足も予想される。また、国内避難民や難民のがん患者の感染症対策も必要となる。

- ・アルビル、バスラ、バグダッド（2 病院）、ドホークの計 5 病院へ医薬品支援、ナナカリ病院への機材消耗品支援、病院内のプレイルーム（ナナカリ病院、セントラル小児病院、バスラ子ども病院）支援を継続する。
- ・厳しい環境下で避難生活を送っている患者に対し、クーラーの設置、感染症対策キット等の配付を行う。また、通院のための交通費の支援も継続する。
- ・ケア・ハウス設置の実現可能性、継続性に関する調査および関係諸団体との協議を行う。
- ・看護師を対象に、感染症対策研修を実施する。4 月にヨルダンで開催されるアジア小児がん学会で発表する医師たちへの助言、交通費支援を行う。
- ・現在アルビルに建設中の骨髄移植センターの早期開設に向け、技術指導等の協力を行う。

(2) 難民支援

① イラク国内緊急支援

- ・ハンケ地区キャンプ外のヤジディ教徒国内避難民 400 人を対象に夏季 5 か月の給水支援を行う。
- ・「イスラム国」から解放された女性の妊娠検査等の医療支援と人権を保護する活動を実施する。
- ・シリア難民妊産婦が安全な出産ができるよう、キャンプ内外での健診を実施、助産院への医療器材を供与する。
- ・シリア難民母子保健維持を目的に、ダラシャクラン難民キャンプ内の妊産婦 410 人に対して、母子保健に関する情報提供と母子保健セミナーを 12 回開催する。
- ・緊急の医療支援が必要な妊産婦・乳幼児に対して、医療費・検査費・交通費を支援する。

② ヨルダンにおけるシリア難民支援

- ・車両を運行する事で、負傷者／障害者延べ 480 人に対し医療施設／サービスへのアクセスを支援する（12 か月）
- ・女性障害者延べ 600 人が利用するリハビリテーション環境を、機材やリハビリテーションサービス提供により改善する（6 か月）
- ・理学療法士の能力向上トレーニング、CBR（地域におけるリハビリテーション）研修を 12 回実施し、約 40 人のリハビリ従事者の能力を向上する。
- ・計 150 人のシリア難民を対象に地雷／不発弾回避教育を 3 回実施する。
- ・ヨルダン人、ヨルダン国内のシリア難民、シリア国内避難民 100 人に対し、義肢を提供する。
- ・女性負傷者／障害者のニーズを把握するための調査および、ストレス軽減や社会参加につながる活動を計画、実施する。
- ・ザアタリ難民キャンプでのリハビリテーション活動（週 3 回延べ 1,500 人）、アンマンでの在宅リハビリ活動（週 3 回延べ 660 人）への支援を行う。

(3) 福島事業

- ・子どもたちを放射能から守る活動：放射能の見える化、検診、保養を行う福島県内外の団体との協力関係を強化し、福島県の団体へ活動経費も含めた資金提供を行う。
- ・セーブ・ザ・チルドレンのハンドブック作成と、子ども向け放射能ワークショップの開発に協力する。
- ・福島を元気にするプロジェクト：引き続き、アカベコ（サカベコ）のワークショップを行い、JIM-NET が海外で活動する地域の子どもたちと福島の子どもたちがお互いを知る機会をつくる。
- ・海外への発信等：国連防災世界会議の成果物「福島の 10 の教訓」ブックレットのアラビア語版を作成し、中東地域における反原発、脱原発の運動を支援する。

（４）政策提言啓発

安保法制化が進む中、戦争に反対する NGO として、ポジションペーパーを発行したり、議員への働きかけを強化していく。

一方、シリアやイラクでの紛争は激しさを増している。一日も早い紛争の解決を目指し、人々と中東の将来を考えていく機会をつくり、また日本政府に対する働きかけを行う。

（５）広報

戦後 70 周年を迎え、中東で活動する NGO ならではの「声」を発信しつつ、「戦争をしない国」としてのあり方を考えていく。また、難民や国内避難民の「いま」を伝えることにより、理解者、支援者の枠を広げる。

- ・JIM-NET の活動状況やイラク現地の情報伝達手段（Web コンテンツ、SNS 等）を充実させ、既存のサポーター支援の継続につなげるとともに、新たな支援者の広がりを図る。
- ・多くの人々に関心を持ってもらえるよう、中東に関する情報を様々な形で伝えるイベントを実施する。
- ・雑誌媒体（特に女性誌、ファッション誌など）への情報発信を強化する。

（６）チョコ募金

- ・実施時期：2015 年 12 月 1 日に開始し、チョコがなくなり次第終了とする。
- ・テーマ「いのちの花パート 2」。イラクの小児がんの子どもたちが描いた花の絵を缶とカードの柄に使用することを通じて、イラクの現状をより多くの方々に知らせていく手段とする。
- ・製造個数：六花亭の協力によるチョコ製造個数は 160,000 個とする。
- ・発送方法：ヤマト運輸のメール便がなくなるため、郵便局のサービスの検討など発送方法を全面的に見直す。
- ・マニュアル化：チョコ募金事業運用の全体の流れを整理し、マニュアルを作成する。

（７）事務局運営

業務拡大に対応し組織基盤を強化するとともに、業務の効率化をめざす。

- ・NPO 会計基準に準拠した会計方法に変更する。
- ・業務の標準化、共有化のため諸規定の見直し、マニュアル化（リスク管理を含む）を進める。
- ・事務局スタッフの能力向上のための研修にスタッフを参加させる。
- ・職場環境整備

JIM-NET 2014 年度決算および 2015 年度予算

収益の部

(単位:円)

項目		2014年度		2015年度
		予算	決算	予算
受取会費	正会員費	75,000	75,000	70,000
	サポーター年会費	9,000,000	10,768,000	10,768,000
	賛助会員年会費	10,000	10,000	10,000
受取寄付金	一般寄付 (内訳:指定なし) (内訳:イラク医療支援寄付) (内訳:難民支援寄付) (内訳:福島支援寄付)	10,000,000	30,861,788 (16,305,537) (4,248,958) (5,648,364) (4,658,929)	33,000,000
	チョコ募金	84,000,000	83,854,003	84,000,000
	指定寄付	0	0	0
	物販寄付(グッズ・書籍等)	500,000	1,129,553	1,100,000
	イベント寄付	1,000,000	349,702	300,000
	絵画展寄付	250,000	105,000	100,000
	受取拠出金	25,700,000	24,223,868	14,700,000
	受取助成金	9,964,553	11,857,461	27,244,643
その他収益	受取利息収入	6,000	3,460	0
	為替差益		345,645	0
当期収入計		140,505,553	163,583,480	171,292,643
前年度繰り越し			147,699,201	168,041,296
収入計			311,282,681	339,333,939

費用の部

項目		2014年度		2015年度	
		予算	決算	予算	
事業費	人件費	アルビル	3,162,406	653,912	3,900,000
		バスラ	979,200	1,061,984	2,200,000
		バグダッド	795,600	796,488	1,775,000
		難民支援(イラク)	2,366,400	613,158	750,000
		難民支援(ヨルダン)	0	0	4,200,000
		福島	500,000	0	0
		チョコ募金	6,536,083	6,760,614	6,169,000
		通勤費(事業)			750,000
	法定福利費(事業)			2,800,000	
	事業管理費	アルビル	2,016,540	3,339,977	4,440,000
		バスラ	1,321,920	1,574,659	1,395,000
		バグダッド	734,400	872,823	1,025,000
		アンマン	510,000	0	0
		難民支援	550,800	7,158,342	18,630,236
		福島	860,000	1,214,329	1,200,000
		チョコ募金	27,137,070	26,229,417	25,508,220
	アルビル	医薬品支援	4,896,000	5,008,845	12,425,000
		機材消耗品	5,100,000	5,105,511	
		院内学級支援	1,815,600	64,775	
		患者支援	918,000	1,340,615	
		感染症対策	2,663,000	1,384	
		専門家派遣費	0	0	
	バスラ	医薬品支援	10,404,000	13,247,378	17,475,000
		院内学級支援	826,200	871,902	
		医師研修	0		
		患者支援	4,896,000	2,978,552	
		感染症対策	0	0	
	バグダッド	医薬品支援	14,688,000	17,207,292	20,200,000
		機材消耗品	51,000	114,091	
		患者支援	856,800	935,092	
		院内学級支援	938,400	901,783	
		感染症対策	0	0	
	アンマン	患者支援	1,000,000	1,058,003	1,000,000
難民	難民支援プロジェクト費	16,008,053	8,733,293	20,903,214	
福島	福島支援プロジェクト費	7,051,000	2,324,996	5,000,000	
	JIM-NET会議	1,300,000	758,931	1,000,000	
	物販購入(グッズ・書籍等)	400,000	538,964	500,000	
	アドボカシー経費	2,500,000	1,825,744	2,000,000	
	印刷広告宣伝費	1,500,000	2,612,747	4,070,700	
	減価償却費	0	428,400	280,000	
	為替差損	0	328,076	0	
	事業費計	125,782,472	116,662,077	159,596,370	
管理費	人件費	14,500,000	18,962,988	12,100,000	
	通勤費・交通費・国内出張費	700,000	910,332	650,000	
	海外出張費	1,000,000	1,503,879	1,000,000	
	通信・運搬費	1,150,000	1,432,991	1,400,000	
	事務消耗品・備品費	1,200,000	493,672	1,000,000	
	事務所光熱費	230,000	217,191	250,000	
	事務所家賃・保険費	1,300,000	1,503,600	1,300,000	
	記録・資料費	100,000	80,852	200,000	
	支払手数料	400,000	576,336	700,000	
	管理諸費	500,000	340,500	400,000	
	緊急対応費	1,000,000	44,840	500,000	
	管理費計	22,080,000	26,067,181	19,500,000	
	経常外支出			512,027	
	支出計		147,862,472	143,241,285	179,096,370
	収支差額		▲ 7,356,919	20,342,195	▲ 7,803,727

前年度繰越金	147,699,201
当年度経常収支差額	20,342,195
次年度繰越金	168,041,396

貸 借 対 照 表

NPO法人 日本イラク医療支援ネットワーク

[税込] (単位: 円)

2015年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	13,036,230
東京事務所 現金	737,269	未払 費用	759,507
現地事務所 現金	4,208,590	前 受 金	14,637,337
普通 預金	195,777,641	預 り 金	160,654
法人三井住友	(16,611,947)	源泉税預り金	(160,654)
郵便局94945	(22,290,049)	仮 受 金	277,576
郵便局チョコ	(142,157,677)	流動負債 計	28,871,304
城南信用金庫	(80,631)	負債合計	28,871,304
N連三井住友	(14,637,337)	正 味 財 産 の 部	
現金・預金 計	200,723,500	【正味財産】	
(その他流動資産)		緊急時対応準備金	5,000,000
前払 費用	249,800	前期繰越正味財産額	147,699,201
立 替 金	179,800	当期正味財産増減額	20,342,195
その他補助	(179,800)	正味財産 計	173,041,396
その他流動資産 計	429,600	正味財産合計	173,041,396
流動資産合計	201,153,100		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器 備品	759,600		
有形固定資産 計	759,600		
固定資産合計	759,600		
資産の部合計	201,912,700	負債及び正味財産合計	201,912,700

監 査 報 告 書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) の2014年度決算(2014年4月1日 - 2015年3月31日)について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2015 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2014 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2015年6月12日

監事: 栗原 郁 